

社会政策学会 Newsletter

学会本部 大阪市立大学経済学部 玉井 金五気付 URL <http://oohara.mt.tama.hosei.ac.jp/sssp/>
 Tel 06-6605-2275 Fax 06-6605-3066 E-mail tamai@econ.osaka-cu.ac.jp
 事務センター 〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-7-2 大橋ビル (株)ワールドプランニング
 Tel 03-3431-3715 Fax 03-3431-3325 E-mail world@med.email.ne.jp

<目次>

1. 第 111 回大会開催校報告
2. 編集委員会からのお知らせ
3. 春季大会企画委員会からのお知らせ
4. 国際交流委員会からのお知らせ
5. 社会政策学会役員選挙結果の報告
6. 学会賞選考委員会からのお知らせ
7. 幹事会議事録
8. 承認された新入会員

1. 第111回大会開催校報告

1. 社会政策学会第 111 回大会は 10 月 8 日、9 日、北海道大学において開催された。天気もおおむね良好で、278 人の会員、非会員の参加を得て盛況のうちに終了した。

2. 大会の準備は、前年度の 7 月 24 日に北海道部会の多くの会員に参加いただき、全体の実行委員会を立ちあげた。しかるのちに、北大を中心とした大会事務局体制をスタートさせた。事務局には、北海学園大学の水野谷、川村会員も参加いただきご尽力いただいた。本大会は、事実上北海学園大学と北大の共同開催ともいえるかたちになった。

3. この時期、北海道は観光シーズンでもあり、また 10 日を含めて 3 連休という好条件もあって、当日の北大では日本中国学会、国際法学会そして社会政策学会と、3 つの大きな学会が大会を開催した。そのため、北大の施設条件をフルに活用することはできなかったが、事前に他学会とは調整と連絡を重ね、大きな混乱はなく終わった。

社会政策学会の会員がメンバーである他学会との日程調整については課題が浮上した。第 111 回大会の日程は早い段階で決定し、幹事に報告をしていくつかの学会との日程調整をおこなった。しかし、それでも社会福祉学会などと日程が重なる結果となった。今後、日程調整の方法を確立していく必要があるようである。

4. 今回の大会は、上述のような条件で航空機のチケットや宿泊施設を確実に確保する必要があることもあって、近畿日本ツーリストへの業務の部分委託をおこなった。航空券や宿泊の手配は遺漏なくおこなわれ、また夕張炭坑跡などへのエクスカッションや、ピアケラーでの懇親会も好評であった。また当日の参加費あるいは懇親会費の授受はすべて業者が代行したため、大会事務局としてこの点は大いに助かった。

他方で課題も浮かび上がった。事前登録の手続きなどは、ファックスや電話など複数の手段で受付をおこなったが、業者を介するという事情もあって周知できず、サイト上の

登録に不便を感じられた会員もおられたと思う。また、航空券は業者がとりまとめることで価格上のメリットがあったが、その分、空港への集合時間が早くなるなどのデメリットもあった。航空券や宿泊などについて、業者を利用する場合と利用しない場合の比較などを含めて、事前にもっと情報を提供するべきであった。

5. 各会場での報告、討議あるいはパワーポイントの作動はほぼ問題なく進行した。レジュメ、フルペーパーの到着状況は、企画委員会のご協力も得て督促を重ね、従来に比べると若干改善された。それでも当日持ち込み数名、不着が一名あった。パワーポイントについては、ノートパソコン持ち込みを原則として併せて実行委員会でもコンピュータを用意しておくというかたちをとった。

会場はいずれも十分な広さであったために、今回ははがきによる参加確認を行わなかった。にもかかわらずプログラムには、はがきによる参加確認をする旨の記載がそのまま残ってしまった。数名の会員から問い合わせなどをいただきご迷惑をおかけした。

二日目の会場である学術交流会館は、電源設備の関係で当日換気ファンが十分に稼働しておらず、空気がよくないという参加者からの指摘もあって、ドアを全開するなどに対応した。

6. 8 日の 18 時 30 分から、大学からバスをチャーターして移動し、札幌ファクトリー「ピアケラー開拓使」にて懇親会を開催した。定評ある会場でもあり、159 名の参加で盛況となった。料理、飲み物なども好評であった。

7. 思いがけずたいへんであったのが、書店への対応であった。今回は 8 つの書店から出店の要請があり、スペースの都合上先着順に 6 社で締め切ったが、書籍を保管する場所や出店スペースの確保などで手間取った。しかし、それだけ会員の利用率が高い、つまりニーズがあるということであり、今後も書店の出店要請が増えていくとするならば、大会開催の新たなポイントとしてノウハウを蓄積していく必要がある。

8. 最後になるが、今回の実行委員長は本学会大会にかんして経験不足であり、玉井代表幹事をはじめ幹事会の皆さん、あるいは多くの会員諸氏に細々とした質問を重ねることになった。親切に丁寧にご教示いただき、ご協力いただいた皆様に改めて感謝申し上げます。

(宮本太郎記)

2.編集委員会からのお知らせ

2006年9月刊行予定の『社会政策学会誌』第16号に掲載する投稿論文を募集しています。掲載ご希望の方は、2006年1月20日(当日消印有効)までにお送りください。投稿資格、投稿論文執筆要領やレフェリー規程については、社会政策学会ホームページにてご確認ください。なお、審査結果あるいは紙幅の都合によっては、掲載が次号となる場合があります。

投稿ご希望の方は、封筒に「社会政策学会誌・投稿論文在中」と朱書きのうえ、法律文化社編集部宛に簡易書留でお送りください。送付先は学会本部(大阪市立大学)とは別の所ですので、ご注意ください。

【送付先】

〒603-8053 京都市北区上賀茂岩ヶ垣内町71
(株)法律文化社編集部(担当:浜上 知子
(はまがみ ともこ))

【問合せ先】

社会政策学会誌編集委員長 橋元 秀一
E-mail: hsyu@kokugakuin.ac.jp
社会政策学会誌編集副委員長 乗杉 澄夫
(秋季号編集責任者)
E-mail: sumi-n@emily.eco.wakayama-u.ac.jp

3.春季大会企画委員会からのお知らせ

2006年6月3日(土)、4日(日)、東京の立教大学において第112回春季大会が開催されます。初日の土曜日には、共通論題「格差社会の行方」のシンポジウムが開催されます。どうぞふるってご参加ください。予定されている報告は以下のとおりです。(いずれも反題)

谷沢弘毅 格差論と戦前期日本 - 経済史からのアプローチ
玉井金五 現在日本のポリティクスを考える
斎藤貴男 労働の格差と成果主義
荻谷剛彦 社会政策としての教育政策 教育改革

また二日目の日曜日には、自由論題・テーマ別分科会の報告が各会場にわかれて行われます。これについては、自由論題報告者および部会・分科会の企画を現在募集中です。応募方法・応募書類については、学会のホームページに詳しく載せてありますので、そちらをご覧ください。自由論題、分科会いずれも、応募の締め切りは2006年1月15日となります。みなさんからの積極的なご応募をお待ちしています。
(文責 田中洋子)

4.国際交流委員会からのお知らせ

1 2005年7月30日から中国の南開大学において社会政策に関する国際シンポジウムとセミナーが開催されました。社会政策学会からは、田中洋子春季大会企画委員長、武川正吾国際交流委員長、沈潔会員が参加し、講演及び講義を行いました。会議に提出された論文は中国語で出版の予定です。

2 2005年9月24日25日に、中国の人民大学で、社会政策学会国際交流委員会の共催にて東アジアの社会保障に関する国際会議が開催されました。日本からの他の共催団体は社会保障研究会、在日華人教授会で、日本側の窓口は日中社会保障交流委員会(委員長・田多英範会員)でした。日本からも社会政策学会会員が多数参加しました。韓国からも多数の参加者がいました。来年も9月9日と10日に開催の予定です。詳細が決まりましたら、この欄でお知らせします。

3 第111回大会で、アジアの福祉レジームをテーマに第5回国際交流分科会(座長 朴光駿会員・コーディネータ 鍾家新会員)が開催されました。なお報告者は、延世大学のチョンムグォン 鄭武權(Cheong Mu-Gwon)氏、北京大学の熊?根(Xiong Yuegen)氏、討論者が田多英範会員でした。

4 11月15日に、文京学院大学の片岡会員を中心に、マイラ・ウィルキンス氏を招いて、「日本と多国籍企業」に関する国際交流セミナーが開催されました。

5 2006年2月末ないし3月上旬に、スウェーデンの研究者を招いて、猿田国際交流委員会副委員長を中心に、中部地区で国際交流セミナーを開催の予定です。

6 2006年度の春季大会では、二つの国際交流分科会を計画しています。一つは、Katharine Stone氏(UCLA Law School)を中心に労使関係に関するものです。他の一つは、東アジアの社会政策学に関するもので、報告者等には玉井金五代表幹事、韓国社会政策学会会長・尹朝徳氏、中国社会科学院社会政策研究センター主任 楊団氏を予定しています。

7 なお会員のみなさまの周辺で海外から社会政策研究者が来日して、研究会等を開催する予定がある場合は、国際交流委員会にもご一報ください。社会政策学会国際交流セミナーとして宣伝していきたいと思えます。

(文責 武川正吾)

5. 社会政策学会役員選挙結果の報告

2006年の春の大会から2年間社会政策学会の幹事と会計監査を勤めていただく方の選挙を行いました。9月30日に郵便による投票を締め切って、10月7日に北海道大学で開票を行い、その結果を、10月7日の幹事会と翌10月8日の臨時総会でご報告いたしました。2005年7月31日現在で会員数1095名、そのうち選挙資格を有しないものは28名(2002年度までの会費未納者24名、退会予定者4名)です。従って有権者は1067名です。有効投票総数は215名(前回は214名)で、有権者総数に対する投票率は20.1%(前

回は21%)です。会員が増えたのに投票総数が前回とほぼ同じであったために投票率は下がってしまいました。

以下選ばれた会員の方のお名前と票数を掲げます。選出された方で得票数が同数の場合は、あいうえお順で掲載してあります。敬称は省略させていただきます。

なお、関東・甲信越ブロックの幹事で、また関西・東海・北陸ブロックと九州・中国・四国ブロックの幹事の次点で、複数の会員が同数の得票を得たために、「役員選挙に関する規程」第12条に従って選挙管理委員会が抽選を行いました。

幹事(定員16名)

北海道・東北ブロック(2名)
宮本太郎 38票
藤澤建二 8票
次点 美馬孝人 7票

関東・甲信越ブロック(8名)

武川正吾 33票
大沢真理 27票
松丸和夫 21票
遠藤公嗣 18票
小越洋之助 18票
伊藤セツ 17票
岩田正美 17票
木本喜美子 17票
次点 橋元秀一 17票

関西・東海・北陸ブロック(4名)

室住真麻子 102票
玉井金五 38票
猿田正機 31票
埋橋孝文 19票
次点 久本憲夫 11票

九州・中国・四国ブロック(2名)

阿部誠 110票
富田義典 14票
次点 久野国夫 11票

会計監査(定員1名)

森建資 31票
次点 森ます美 11票

選挙管理委員会
森建資(委員長)
田中拓道
室住真麻子
山本興治

6. 学会賞選考委員会からのお知らせ

会員の皆様、2005年1月～12月に刊行された会員の著作をお知らせください。賞への推薦も、自薦他薦を問わず受け付けます。審査対象については、学会賞表彰規定第2条、第3条をご確認ください。著作の把握同様、著作の入手はそれ以上に骨が折れます。著者の方、御著書の寄贈をお願いいたします。(選考委員長 日本女子大学 高木郁朗まで)

7. 幹事会議事録

【第14回幹事会議事録】

日時: 2005年9月13日(火)午後2時 4時15分
場所: 大阪市立大学経済学部棟会議室
出席: 熊沢、菅沼、田中、玉井、乗杉、室住、山本
欠席: 阿部、大沢、木本、伍賀、佐口、猿田、武川、竹内、富田、野村、橋元、橋本、服部、兵頭、松丸、宮本、森、伊藤

議題

1. 新入会員承認

6名の新入会員を承認した。

2. 秋季大会企画委員会報告

阿部委員長から提出のあった資料に基づいて、111回大会の内容を中心に話し合いがなされた。また、113回大会は大分大学で開催されるが、共通論題のテーマ等については来年1月開催予定の幹事会までにとりまとめたこととなった。

3. 111回大会開催校報告

すでに大会プログラムが会員宛に発送されたこ

と、準備も順調に進んでいることの報告があった。

4. 春季大会企画委員会報告

田中委員長から来年春の112回大会の共通論題についての報告があった。テーマは、「社会格差」にかかわるもので、報告者としては4人中3名(谷沢弘毅、苅谷剛彦、齊藤貴男)それとコメンテーターとして1名(高田一夫)が決定していることが明らかにされた。10月の初めに第1回準備会を予定しているため、早急に残りの1名の報告者を決定したいことも併せて述べられた。

5. 112回大会について

来年の春の大会は6月3、4日に立教大学で開催されるが、準備状況について菅沼幹事から報告があった。すでに、実行委員会(委員長・井上雅雄、事務局長・菅沼隆)が発足しており、7月23日に第2回目の委員会が開催されたことと、専修大学から引継ぎが完了したことへの言及があった。

6. 編集委員会報告

乗杉副委員長から14、15号の編集の進捗状況や投稿の実態についての報告があった。また、科学研究費補助金の申請の時期が近づいてきており、応募するか否かについて協議したいとの発言があった。

7. 国際交流委員会報告

8月に中国の天津(南開大学)において社会政策関係の研究者会議があり、それに参加・報告した田中幹事からその様子について報告があった。また、9月には北京で社会保障に関する国際会議があり、日本からも社会政策学会の会員が参加・報告する予定であるとの指摘があった。

8. ホームページ担当報告

今年度の予算で、戦前期社会政策学会大会第7回大会以降の記事のテキストデータへの変換を行うことに決定した。また、英文ホームページについては管理者を決める必要があり、候補となる適任者の情報交換を行ったが、そこで名前

のあがった会員に打診してみるようになった。また、二村会員から提案されている地方部会、専門部会のホームページ作成について再度意見交換した。

9. 学会賞選考委員会報告

玉井代表幹事から、懸案になっている1名の補充について谷沢弘毅会員にお願いし、快諾を得たとの報告があった。

10. 選挙管理委員会報告

各会員宛に役員選挙に関する案内等が郵送されたこと、また投票の締め切りは9月30日であることが確認された。

11. 日本学会会議関係報告

日本学会会議の再編に際して、経済政策研連に属していた一部のメンバーから再編に向けてのインフォーマルな会議を持ちたい旨の文書が本部宛で届いたが、趣旨が全く判然としないことをはじめ問題が多く、応じないことにした。

12. ニュースレターについて

玉井代表幹事から、第6号は10月のはじめに刊行予定であるとの報告があった。また、ニュースレターに写真を掲載することを考えてはどうかという提案が出された。そのさい、春の大会に参加・報告されたイギリスのヒル先生からいただいたイギリス社会政策学会のニュースレターの回覧を行ったが、その充実度から学ぶべき点が多いという声が圧倒的であった。

13. その他

1)会費未納会員の氏名の公表があった。会費未納を催促する文書について、これまでのものに代わる内容を検討することにした。
2)学会の全国大会の広報として、ポスター作成をしていくべきではないかという意見が出ているが、もしそれを作るとしたら予算的、事務的にどのようなことが生じてくるのかといったことについて意見交換した。

8.承認された新入会員

氏名	所属	専攻	推薦者
<10月8日の第16回幹事会で承認(3件)>			
土田とも子	東京大学社会科学研究所	ジェンダー・女性	大沢真理 金井 郁
窪田道夫	東京外国語大学大学院地域文化研究科博士後期課程	社会保障・社会福祉	玉井金五 沢田ゆかり
芝田文男	北海道大学公共政策連携研究部	社会保障・社会福祉	宮本太郎 田中拓道
<10月9日の第17回幹事会で承認(1件)>			
赤星香魚	山口大学大学院東アジア研究科院生	ジェンダー・女性	横田伸子 小柴久子